

舞鶴湾のマアジやスズキの生態を調査する方法として、「環境DNA」を使っています。これは、海水に含まれるDNAを検出し、生物の種類や量を調べる技術です。北海道大学、神戸大学、龍谷大学の研究者らも当実験所に集結し、緑洋丸を駆使して共同研究を展開しています。(夜は市内の居酒屋さんで勉強会？(笑)をしています)。世界でもトップレベルの研究ができるのは貴重な体験です。



京都大学大学院 博士課程
村上 弘章さん



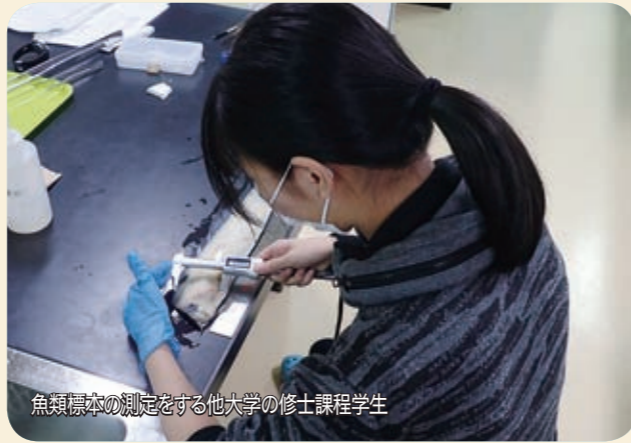
共同利用研究

舞鶴水産実験所では、他大学の学生の研究活動(卒業論文、修士論文、博士論文の研究)の一部を、公募による選考で受け入れています。

実験所の施設、研究機器、所蔵魚類標本の利用に加え、教職員による研究指導やサポートを受けることもできます。宿泊棟を利用した長期間の滞在も可能です。他大学の学生で実験所を利用したい人は、ホームページをご覧ください。詳しい利用方法・手続きについての情報を掲載しています。

【共同利用による研究例】

- ◇ 通し回遊の起源と進化過程に関する生理・行動学的研究
- ◇ 魚類による稚クラゲの捕食についての研究 など



魚類標本の測定をする他大学の修士課程学生

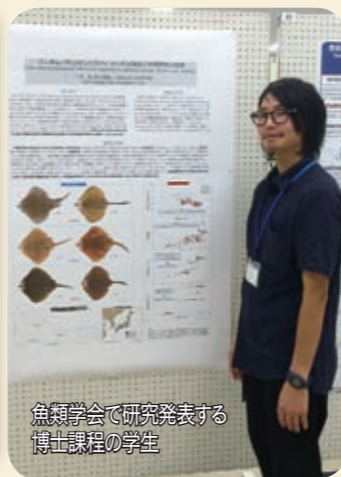


舞鶴水産実験所 所長
准教授 益田 玲爾さん

魚を見て、さわって、ときには食べてみて、初めて理解できることがあります。頭で考えるよりも五感で学ぶのが、私たちのスタイルです。

目の前には豊かな海が広がり、そこに潜ってみると魚はもちろん、いろんな生き物が暮らしながら、密接につながっているのがわかります。そんな近隣の海でとれた魚が、その日のうちに食卓に並ぶのもありがたいことです。海と環境について学ぶ上で、舞鶴ほど恵まれた場所は他にはありません。

最近では、全国の大学生を対象とした公開実習にも力を入れています。今年を受講生には、「池内小学校で先生の講演を聞きました!」という市内出身の学生がいました。海の魅力を地域の人たちに伝えるのも大切な仕事です。



魚類学会で研究発表する
博士課程の学生



市内学校めぐり

知っているようで知らない? 第6回

京都大学 フィールド科学教育研究センター 舞鶴水産実験所

海の生物と環境を研究しています

舞鶴水産実験所では、河口・沿岸域を主なフィールド(活動・研究対象の環境領域)として、魚類をはじめとした水生生物の生態、生理、行動、分類や水産学、環境学について研究が行われています。

23の敷地内に標本館、飼育棟、研究棟、宿泊棟、教育研究船「緑洋丸」などの施設を備え、教員6人、大学院生8人が所属しています。標本館には、国内2位の規模を誇る魚類標本約3,000種、30万点を所蔵しており、海外からも研究者が標本を調べに訪れることもあります。

1972年に京都大学農学部附属水産実験所が水産学科の跡地に設置され、2003年に京都大学フィールド科学教育研究センターへ移行ののち、現在の「舞鶴水産実験所」に改称されました。2011年から、教育関係共同利用拠点として文部科学省から認定され、日本海側で唯一の大学附属水産実験所として他大学の共同利用研究・実習も進められています。

実習生の受け入れ

毎年、京都大学だけではなく、多くの大学や高校の実習生を舞鶴水産実験所が受け入れて、多彩な教育活動を展開しています(27年度、17件388人の実習生を受け入れ)。

例えば、今年の春には、京都大学大学院地球環境学堂スプリングスクールが実施され、11か国17大学から21人の学生が参加し、フィールド調査と採集されたサンプルの観察やDNA分析などが行なわれました。

7月21日・22日には、西舞鶴高校理数探究科2年の夏季実習を受け入れました。この実習では、伊佐津川の上流と下流で水生生物と水質の調査を行ったほか、舞鶴西湾と由良川河口沖で底生生物を採集し、海洋環境を観測しました。

また、7月27日~29日には、京都教育大学附属高校の臨海実習が行われ、シュノーケリングによる水生生物の観察のほか、ムラサキウエの発生観察などを体験しました。

この他にも、他大学の学生が参加できる公開実習が8月、9月、3月に開催されています。これまで舞鶴市出身の大学生も多く参加しています。詳しくは実験所ホームページをご覧ください。



大小さまざまな魚類の標本が並ぶ標本所蔵庫



西舞鶴高校の実習



飼育棟内部
蛇口から海水が出てくる



京都大学大学院地球環境学堂
スプリングスクール



京都教育大学附属高校の
臨海実習



10月15日に実施された「緑洋丸」の乗船体験

国立大学法人 京都大学 フィールド科学教育研究センター 舞鶴水産実験所

住所: 舞鶴市長浜番外地
TEL: 0773-62-5512
ホームページ: <http://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/>

HOTな話題 新種の魚 発見!!

舞鶴水産実験所の緑洋丸で、舞鶴市の冠島沖の海域を調査中に新種の魚が採集されました。この種は、フランス料理に使われることで有名な「シタピラメ」の仲間ですが、最大でも体長が8センチほどの小さな種です。そのために、今まで発見されずにいたのかもしれませんが。台湾とアメリカの研究者、そして舞鶴水産実験所の甲斐嘉晃助教が共同で研究し、「ハシナガアズマガレイ」という名前をつけて今年の7月に発表しました。舞鶴の海にも、まだまだ名前の付いていない新種の魚がいるのかもしれません。



ハシナガアズマガレイ